第73回 小中高校生の吃音のつどい(五行詩で表現！)

11月13日(日)**小学生18人、中学生7人、高校生5人、ご両親24人、スタッフ53人**の**計107名**が参加。**練馬区立大泉小学校ことばの教室及び体育館**にて開催。昨年の大好評に続き、篠原久美子さん、すずきこーたさんの講師お二人による**五行詩を使った演劇ワークショップ**でした。 ご両親グループでも、皆真剣に取り組み、どの作品も吃音を持つ子供の親の不安、悲しみ、喜び、希望、愛情といった様々な感情をひしひしと感じられるものばかりでした。歌って発表するグループが登場した時は大盛り上がりしました。真摯に自分達の思いを言葉で表し、どんな振り付けをしようか楽しそうに意見交換をしていました。とても充実した時間でした。 大泉小ことばの教室の大澤明子先生、大橋玲美先生、つどい前のご準備いただき、そして当日丸一日及びその後のスタッフ反省会まで、貴校をお貸しくださり、ありがとうございました。練馬区教育委員会にも後援いただきました。 (リーダー**小笹ふみ、山岸大起、川端鈴笑**)

篠原 久美子(劇作家、演劇講師)

「存在を肯定する場」としての「つどい」の場

昨年に引き続き、すずきこーたさんと『演劇で遊ぼう』ということで、つどいの皆様とご一緒させていただきました。今年の遊びは「五行詩」ということでしたが、このワークを通じて今回、特に「素晴らしいな」と思いましたことについて書かせていただこうと思います。

一つは、スタッフの皆様の準備と対応です。主に大学生の方達と伺っていますが、短い時間で行うには難しさもあるワークをよく準備され、また、当日、特に子供達に、親しみとユーモアを交えたフォローをされていて、素晴らしいなと思いました。

もう一つは、子供達の**「吃音」や「どもり君」を表現する言葉の豊かさ**です。特に、ここでは敢えて、**罵倒語について**思いましたことを書かせていただこうと思います。私は小学生のグループにいたのですが、ここでは、「どもり君」に対して、「KY(出てきてほしくない時に出て来る、空気読めない奴)」といった、比喩表現として思わず「絶妙！」とうなりたくなる表現から、「バカ」「死ね」といった率直な怒りを思いっ切り投げつけるものまで、様々な表現が見られました。また、それらの率直な怒りの横にイラストを入れて、ユーモラスに「怒りを笑いにそらす」という表現も同時に行われていました。

誤解を恐れずに申しますが、私はそれらの言葉や絵を見ながら「ここは豊かな、いい「場」だな」と思いました。率直な怒りというのは、言ってみれば「涙のない悲しみ」のようなもので、それをぶつけて怒って笑って「受け入れられる場」は豊かです。

以前、劇作家で演出家の鴻上尚史さんが、「子供は学校語を持っている」とおっしゃったことがあります。常に正解を求められる学校の中で、子供達は自然に、「どう答えれば、おとなが喜ぶかを先読みする」というのです。それが特に出やすいのが、おそらく、学級会や道徳の授業ではないでしょうか。例えば、道徳の授業で「家族」について考えた場合、「たまに喧嘩することもあるけど、やっぱり家族は大切だ」という「意見」がおとなは一番、安心する、と子供はどこかで知っています。もちろん、心からそう思う子供達は、素直で素敵で、素晴らしいと思います。けれども、もしもどこかに「家族なんて大嫌い」「家族なんて無い方がいい」と言う子供がいたとしたら、それを「家族は大切」に向かって修正する機能が道徳にはあると思われます。それは、教育という観点からすればとても大事なことと分かっていますが、どうしてもそこには「心のきしみ」が生じるようにも思えてなりません。

けれども、「家族なんて無い方がいい」と言った瞬間に「それは面白いね」と言えるのが、「芸術(表現活動)」です。「じゃ、家族の無い理想の世界のお芝居作ってみようか」と笑って、その**子供の怒りも悲しみもそのまま肯定できる懐の深さが演劇を含む表現活動の醍醐味です。道徳が許さない罵倒語を芸術は許す、そのことが、本当の苦しみや悲しみの中にいる人間を、ふっと楽にする瞬間が、**

確かにあるのです。もちろん、その根本には、人間に対する尊敬と愛が必須ですが。

少しばかり大げさなもの言いになってしまったかもしれませんが、私はあの体育館で、白い大きな模造紙に、率直な罵倒語を、ワイワイ言いながら書く小学生達の中に、それを丸ごと受け止める「場」である「つどい」の明るさとおおらかさや、演劇という表現活動の懐の深さを、なによりも素晴らしいと感じました。

午後の保護者の方々との話し合いですが、ここでもスタッフの方の進行の見事さに目を見張りました。若い方ですのに、自分よりも年上の保護者の方々全員に、話しやすい呼び水を送られ、しっかりと話を聞かれ、ご自身の体験を交えながら話を発展しやすく持っていかれて、素晴らしいと思いました。保護者の方々のお話も、お一人お一人、それぞれのお子さんの問題にそれぞれの方法で向き合っておられる様子に、子供達への愛情の深さを感じ、胸を打たれました。また、この「つどい」の場が、とても良い形で「情報交換の場」になっているのだということも分かりました。学年の違うお子さんがかつて抱えた問題が他の保護者の方の良いアドバイスになったり、学校との関係の持ち方や学習方法、具体的な病院や訓練の情報などが交わされ、この場が、不安や問題の解決の糸口をも提供しているのだと思いました。

その中で、私は演劇の話しかできない者でしたが、何かのお話の流れの中で、**小学校の演劇授業を通して、子供達が「友達を尊敬する力と自分を好きになる力が伸びた」**と先生方に言っていただいた話をさせていただきました。そのことが「印象に残った」と、ある保護者の方に言っていただきましたので、そのお話を簡単にさせていただきまして終わろうと思います。

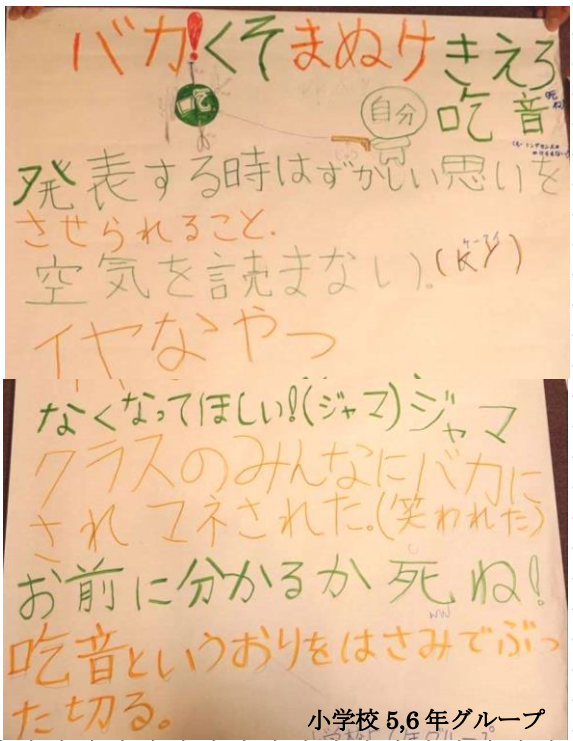
学校は基本的に「努力」と「能力」を褒めて伸ばしてくれる場所です。「よく頑張りましたね」「よくできましたね」「よく頑張ってできるようになってすごいね」といった褒め方で、これはとても大切だと思います。その中で、**演劇授業だけに特徴的なこと**は、努力と能力以外に、「あなたがステキ」と「存在そのものを褒める」ことができる瞬間が多くある、ということです。「君のそのぶっきらぼうさがカッコいい」「恥ずかしがるしぐさがチャーミング」「あなたはもう、ただ笑って舞台に立っているだけでいいわぁ」と、努力も能力も関係無く、その子供の「存在」の素敵さを褒められる唯一の授業が、おそらく演劇授業だったと思います。そのことが子供達に、「自分と友達の発見」につながりました。欠点だと思っていたことが魅力になりうる、自分も友達も、存在そのもので素敵なところがあるという、「存在の肯定」が、演劇の特色の一つです。そうした「自分そのもの」「友達そのもの」が肯定される瞬間の繰り返しが、「友達を尊敬する」「自分を好きになる」力を伸ばすことにつながったのだと思います。

「つどい」の場は、様々な意味で、この、演劇に通じる、「自分そのものの肯定」に繋がる活動の場なのだと、今回は改めて、思わせていただきました。

S.T さん（小５J君のお母さん）

先日の写真も沢山、家族で見返して色々話しています。今回、3 回目の参加で、夫も 2 回目でした。

夫は、夏のキャンプは無理矢理(笑)。なんと今回は、「俺も行ってみようかな」と言い出し、私は嬉しくビックリしています。今回、夫とじょう息子が多忙過ぎて、母の私だけの感想です。



小学校 5,6 年グループ

感想は**「1 日ではもったいない濃い 1 日・一言一言が宝の山」**です。

日頃は、自分の思い・本音・意見など、沢山のものを心に隠し持っている人が多いので、今回のように、色んなものを出せたのは、貴重な時間と成功体験になったと思います。

人間は、何かしらの形で、自分を表現する喜びを得たいものなので、演劇という形での発表はハードルが高くて一見難しいものですが、最高！の舞台だったと思います。発表する人も、聴く人も、こんなに真剣に、また笑顔炸裂の機会は貴重ですよね。一言に 1 分 2 分、どんなに時間が掛かっても、聴きたいんです。伝えたいものが必ずあり、伝える価値の無い言葉など一つも無いです。

斉読で声を合わせたり、手足顔体全体を使って気持ちを表現したりと、表現方法は無限に沢山あって、聴いてる側はどんどん引き込まれる。一言一言の大切さ、重み、の背景まで想像しながら聴き入りました。

一言一文が宝のようでした。

一言も聴き逃せない沢山の言葉で、心がギッチリ埋め尽くされて幸せでした。

「私はこんなにお喋りなの！もっと沢山話したいし聴いて欲しい。自分ってこんなに素敵な人なんだもの」と再確認できる毎日であって欲しい。

でも中々、辛い、苦しい、悲しい、悔しい、などの気持ちは、ここでしか出せないのなら、全部出し切って欲しい！**負の気持ちを出していかないと、前向きな意見や気持ちを取り込むことが出来ない。**

小学生の**「バカくそマヌケ消えろ吃音・・・吃音というオリをハサミでぶった切る」**は、皆の気持ちの代弁ではないかと、見事でした！とてもスッキリしましたよ。あのような本音中の本音を、言える場所が必要です。でも小学生でないと中々言えないかもしれない、素直な気持ちを、親は否定しないで大切にしたい。

また別の小学生グループの、「100 人に一人のレアな人」は私は前向きな台詞と受けとりました。**＜自分に価値を見出だして前を向こうと頑張っているんだな＞**と、胸が熱くなりました。

どう受け取るかも、また違うのも面白い。一言の奥には沢山の思いが詰まっているから、そこに至るまでの葛藤や悩む姿まで見えるようでした。

吃音観、が一人一人違うように、吃音との向き合い方も全員違っているので、それを知る、違う考えに出会ってみる。人と人とが出会うように。

どうか一人で抱え込まないで下さい。気持ちを教えて下さい。聴きたいです。自分で自分を責めたり、価値を下げる人生にはしないで欲しい。もったいない。

自分の価値探しは、こうして皆で、していけるんだから！人生は何かを探す旅で、皆は探しながら必ず進んでいますから！！！　という思いです。いつも熱くてすみません(笑)。

3 月も絶対に参加しますので、宜しくお願いします！毎回、息子がこの日に体調を崩したら・・・と思うと眠れないほど、ドキドキして遠足のようです。このような活動を知らずに一人で悩む子供達はまだまだ沢山います。

ちなみに、息子が 5 年生枠で、市内 45 校の陸上部大会の 100 メートル走で 1 位になりました。将来は、吃音のメダリストになって、吃音でコメントして吃音を広めたい・・・という今の気持ちを持ち続けられれば、親としては嬉しいです。

少しずつ、家族で進歩しており、つどいのスタッフの皆さんの前向きなパワーのお陰です！本当に感謝です。。

K.T 君(小 4)

「吃音と付き合うためには、この**ドモラーマ**も必要で、登場してもらう必要がある。思い切って仲良くしてみると、見逃してくれる？というか上手く付き合えるようだ」

K.T 君作

すずき こーた(演劇ﾃﾞｻﾞｲﾝｷﾞﾙﾄﾞ、演劇講師)

「つどいのみなさま」

こんにちは、すずきこーたです。大泉小学校での活動はいかがでしたか？日が照ると暖かいとは言え、体育館の中は寒くはなかったでしょうか？

昨年に引き続き、私と篠原さんがお邪魔して、

「演劇で遊ぼう」という活動をさせて頂きました。今年は**「ドラトラ」**というものに挑戦しました。「ドラトラ」は**タガログ語で「詩劇」**と言う意味で、PETA（ペタ＿フィリピン教育演劇協会）が開発した演劇をつくる方法です。

まず**一人で「五行詩」を書きます**。**1 行目には詩の中心になるものや行為の名前、2 行目にはそのものの動きや働きを説明**し、**3 行目にどんな感じか、4 行目には連想すること、5 行目に意見や感想など**を書きます。必ずしも 5 行である必要はないのですが、あまり多くを書くのではなく、そのもの（こと）をシンプルな形で、かつ面的に捉えていくことで、自分でも意識していなかったことが浮き上がってくるのです。

私達人間は（と言うと語弊がありますね。少なくとも私は）弱い生きもので、言い訳をしたくなります。そうすると言葉が多くなります。言葉が多くなると、伝えたいことがぼやけてしまうことがよくあります。例えば「愛してる」という言葉は、ストレートでシンプルなので、力があるように私は感じます。でも「君のその手が、なんというか白魚の様な指で、美しくて、いや、他にそんな人がいないと言うことではないのだけれど、僕はその手がとても気に入っていて、その手で去年僕に教科書を貸してくれて…」みたいに長くなると、「じれったい！！」感じになるし、良く分からなくなってしまうことも少なくありません。

なので、五行詩は、書き足りない、全てを言い尽くしていない、と思った方もいるかもしれませんが、その方が力があると私は思っています。

次に、グループで集って、その詩を一つにしていくことを考えます。まとまってなくて良いんです。違う意見や見方が散らばっているからこそ、グループで一つにすると、そのグループの人達の想いが浮き上がって来ると私は思います。一番シンプルな形は、グループのメンバーの詩を、そのままどのような順番で並べるかを考えます。でも、例えば、**1 行ごとに交互に並べ替えるとか、全ての言葉を使わずに、メンバーの言葉を並べ替えて再構築**したりします。 グループ詩も、また、一人の意見だけでなく、似た意見を並べて繰り返すことで、また反対に、違う意見を敢えて並べることで、いろんな人の想いが、一人で書いた五行詩の時より強調されます。

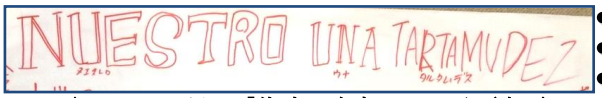
最後に、でき上がったグループ詩を、どうやって声にのせるのか？読む人の立ち位置や動きなども工夫しながら、「劇」として見ても楽しいものにしていきます（私はこのことを**「立体化」**と言ったりします）。この 3 つの過程のことを「ドラトラ」と言います。PETA はこの方法で、貧しい漁村やスモーキーマウンテンと呼ばれる所に住んでいる人達の所に入り込んで、現地の人達が何を思っているのか、どうなって欲しいのかなどを演劇にしました。

この方法は段階を踏んでいるので、多くの人が「演劇」を抵抗無くつくることができます。私はいつも思っているのですが、**演劇は特別な人だけのものではありません**。テレビや映画に出るような人が、大きくて素晴らしい照明設備がある舞台などでしかやられるものではありません。誰だって、自分の想いを演劇にして、他の人に伝えることができるのです。そのことを実現できる一つの方法がドラトラです。

今回は時間が短くて、最後の立体化のところに時間があまりとれなくて申し訳なかったです。時間が足りないことは分かっていましたし、猛スピードでドラトラをやっても意味がないと私は考えていますが、スタッフのメンバーと実験したり話したりして、今回やってみることにしました。大急ぎであったのにも関わらず、参加して下さった方は前向きに取り組んでくれて、グループの詩を読むことがなんとかできました。グループ詩を読むことができて良かったなぁと想っています。

でき上がった詩も、あえて年代別に分けたのですが、その年代年代によっての違いが見えてきました。年齢の低い子達は未来を感じられたかもしれません。大人に近い人達は、自分が通ってきたところを思いだし、後輩たちにアドバイスができるかもしれません。

ドラトラに限らず、どんな演劇でもそうですが、つくってしまい、見ておしまい、ということではなく、演劇をつくって見て、何を思ったのか何を感じたのかを話し合うことで、これからのそれぞれの生きて行く

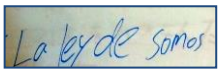


↑スペイン語で「俺達の吃音」 Y.I 君（高 2）

時の手助けになれるはずです。今回の活動は、そんなきっかけになったように思います。

私も本当に充実した時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

R.N さん（小5）



今回は、演劇というテーマで私は、演劇をやりたいなとずっと思ってて、学校とかでやる演劇は吃音どうしじゃないのでやりたくても、できませんでした。けど、今回のテーマは、演劇と聞いて『やったー！』て思いました。ずっと、やりたいと思ってたことができる！吃音どうしだから吃りも気にしないで、しゃべれる！と思ってつどいが楽しみでした。

でも、私が考えてた演劇とはちょっと違っていました。私は、役割とかを決めて演劇をやるのかな、て思ってたけど、吃りの詩を作る演劇の方で少し違ってたけど、とても楽しめました。

吃りの詩では、みんなそれぞれ自分の気持ちを書いていました。みんなの詩を聞いて、みんな辛いこともあるけど前向きに生きてるんだなって、思いました。

S.N さん（Rさんのお母さん）

2 回目でしたが、またテーマが違うということで、新たな気持ちで親子で参加させていただきました。

普段どれだけ、『考える』『自分の気持ちを声に出す』ということをしていないのか、私自身が反省と、良い経験をさせていただきました(^^)

前回のつどいの参加後、私の中では悩み・苦しみ・悲しみ・途方に暮れていた頃とは違い、今の【段階】では、『吃音』が気にならない生活が送れています。それは、やっぱり、娘自身が背伸びした訳でもなく、自然に強くなり、同じ【悩み】でも、普通に生活している中での悩みだったり、やりたいことだったりが多く、前までの吃音で悲しい思いをした、笑われた、マネされたという、悩みが減っているので、家族も一喜一憂することなく、見守れる体制で生活が送られているからだと思います。

本人も今の小学校生活を、吃りながらも、周りの先生やお友達、クラスメイトがバックアップしてくださっています。心ない言葉や言動は、娘や私の耳には最近は入ってきていません。

小学校 1 年～今の 5 年生までの担任の先生方が、いつでも娘を応援してくれていることがよく分かる時があります。今、学級委員長を務めていて、そのことを、もう学年が変わり担任でもないのに、私に『Rさんやりましたね～♪』と、嬉しそうに声をかけてくださったり。仲の良い友達はもちろん。クラスメイト、委員会活動の場や、いろんな場面でも、『せーの』って言おうか？とか、『一緒に言う』『待ってるから大丈夫だよ』とか、やんちゃな男の子も『がんばれ』などと、励ます言葉をかけてくれるようで、家に帰ってきて、嬉しそうに話しくれます。

学校では、娘の周りには同じ吃音者はいないのですが、つどいの場では同じ悩み、経験した方が集まりたくさん話せるので、本当に心強い場を見つけたね～♪と、親子で嬉しい思いで話しています。

大澤　明子（大泉小学校ことばの教室教諭）

初めてつどいに参加して、ありのままの自分でいいこと、思いをことばにすることの大切さを感じました。「吃音五行詩」では、小学校低学年でも思っていることを、こんなにもストレートに表現できることに驚き、体全体を使って伝えようとする姿に、とてつもないパワーを感じました。 今回反省会にも参加し、丁寧に真剣にグループごとの振り返りをしているスタッフの皆さんの姿に、毎回そこまでされているのか！と驚きました。そしてその思いの積み重ねで作り上げているつどいだからこそ、参加者は安心して自分を出すことができ、温かく深い絆で結ばれていくのだなと思いました。

会計報告＆後記

項目	収入	支出	残高
参加費（77組×800円）	¥61,600		
スタッフからのカンパ	¥3,000		
講師謝礼		¥30,000	
案内状発送郵送費（切手代含む）		¥22,564	
封筒代		¥2,376	
写真代		¥1,800	
ミーティング会議室使用料金		¥2,100	
配布資料印刷代・文房具代		¥3,125	
合計	¥64,600	¥61,965	¥2,635

Rちゃんが自分の思いを精一杯表現できたようで嬉しい。中学生になり、もし吃音の新しい悩みが生まれた時も、つどいがそれに向き合い解決できる場所になるよう、スタッフ一員としてサポートしていきたい。 **ふみ**